

国会開設の歩み

兵庫県 公立中学校教諭

1 はじめに

歴史学習改善の課題の一つに、歴史事象を網羅的に扱う授業から、時代区分を大きくとり、各時代の特色や変化をつかみ、時代の大きな流れを理解できるような授業への転換という課題がある。

このような課題への取り組みとして、本稿では「国会開設への歩み」を題材として、明治維新を大きくとらえ、明治時代前半に日本が近代国家を形成する時期の特色、時代の変化、現代への影響などを考えてみる授業計画を提案してみたいと思う。

なお、本稿は授業実践と題したもので、本来であれば実践の結果、生徒に対してどのような効果があったのか、またはなかったのかを明らかにすることが必要である。しかし、本稿作成の段階ではまだ実践がなされておらず、生徒の反応や変容などは提示できないことを、あらかじめ、お詫びしておきたい。

2 単元構成の考え方

第3節「国会開設への歩み」は6時間で1単元となっている。教科書でこの単元の前後の内容を見てみると、この単元終了の時点で「明治維新」とはどのようなものであったのかをふりかえるのにちょうど良いタイミングであると思われる。これが6時間限目に設定されている「日本国民の誕生」の時間と考えることもできる。

そこで、この単元を6時間で構成するにあたって、既習の第1節、第2節の基本的な事項の位置づけも行いつつ、明治維新を総括する視点に立って、日本の近代国家形成期の特色を考えるような指導計画を組み立ててみた。

明治維新を総括する視点とは

- ①政府の指導者たちの目に、欧米やアジアがどのように映り、いかに対処しようとしたか。
- ②どのような改革を行い、短期間に近代国家をつくりあげていったか。

- ③当時の一般の人々にとって明治維新とはなんであったのか。

の3点である。

3 単元の展開例

第1時 岩倉使節団と条約改正

発問 岩倉使節団の動きをとおして、当時の政府の指導者が欧米やアジアをどのように見ていたか、教科書の資料から読み取ってみよう。

● 岩倉使節団員・久米邦武の記録（『米欧回覧実記』一部要約）
 ～アメリカ・ヨーロッパにて
 …欧米諸国では自由や自主の考え方が広がっているが、そのため、国民は開墾や事業をおこなうことにさかんにはげみ、すぐれた工芸産物が生まれ、ゆたかさはどんどんわき出る。
 …国民の自主の権利を強くすれば政府の指導力が弱くなり、自由をふやせば秩序がゆるむ。一長一短である。
 ～帰路アジア洋上にて
 …国の貧富のちがいは、土地の肥沃さや人口の数などによって決まるのではない。国の人民がどれだけ勤勉に働くかによって決まる。
 …弱者の肉は強者の食するところとなる。熱帯の弱い国は食べられる国となって、ゆたかな産物はヨーロッパにはこぼれてしまう。

帝国書院『中学生の歴史（最新版）』p.156

欧米追従とアジア蔑視の見方

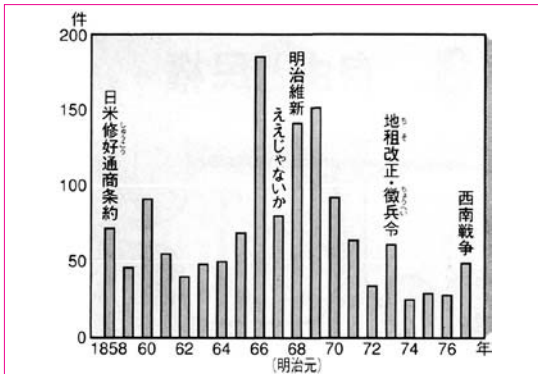
教科書の資料で岩倉使節団のコースをたどった後、久米邦武の記録や台湾出兵の錦絵から、当時の指導者や一般の人々が欧米追従とアジア蔑視の見方をしていたことを読み取らせる。

- 征韓論をめぐる西郷・板垣らと岩倉・大久保らの対立があったことについては、これが米欧回覧の体験による国際情勢の見方の違いだけでなく、士族の不満を重視するか農民一揆の防止を重視するかの違いもあったことを、第2時でふりかえることができるようにしたい。
- 領土の画定の過程を確認し、欧米に対する態度と朝鮮に対する態度の矛盾に気づかせ、欧米追従とアジア蔑視の実際を読み取らせる。

第2時 各地の「御一新」と人々の抵抗

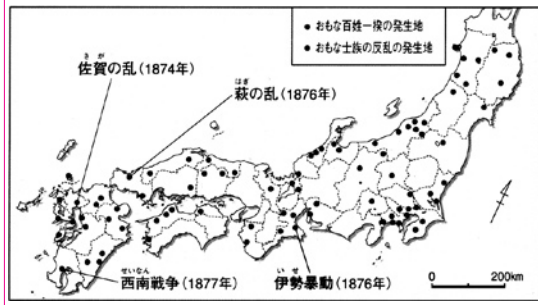
発問 地租改正、学制、徴兵令などを手がかり

に、農民の生活について調べ、人々の願いと明治維新の諸改革の現実について考えてみよう。



▲④明治維新前後の百姓一揆の件数

▼⑤士族の反乱と百姓一揆



帝国書院『中学生の歴史(最新版)』p.159

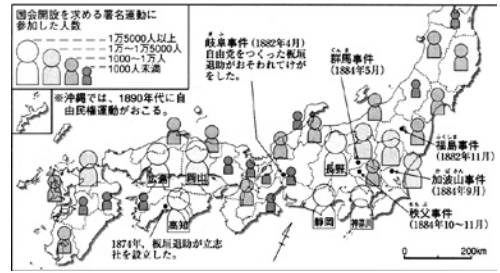
農民の負担は「御一新」によって軽くはならなかったため、政府の地租改正に反対する一揆が各地で起こった。明治維新前後の百姓一揆のグラフから、幕末期の「ええじゃないか」の頃から続く人々の「世なおし」への願いと、地租改正に対する不満を読み取らせる。

- 士族も維新の諸改革によって生活が変化し、征韓派で下野した西郷などは、士族の不満を重視していたこと、これに対して、内治派は百姓一揆の防止を重視していたことに気づかせる。
- 士族・農民だけでなく、被差別民や娼妓など、さまざまな立場から「御一新」をとらえることができることに気づかせる。

第3時 自由と民権

発問 国会期成同盟について、中心となったのはどのような人たちか。なぜ、そのような人たちが議会の開設を求めたのかを確認し、民撰議院設立建白書と比べて、議会の開設を求め

る運動にどのような変化があったか考えてみよう。



▲②自由民権運動の広がり

帝国書院『中学生の歴史(最新版)』p.161

士族の反乱と百姓一揆の資料もあわせて見る。西南戦争後は農民や商工業者も参加し、全国的な運動になった。年表、士族の反乱と百姓一揆の分布図、自由民権運動の広がりの地図などから、士族以外の人々の参加と全国的な広がりを読み取らせる。

- 民撰議院設立建白書について、中心となったのはどのような人たちか。なぜ、そのような人たちが議会の開設を求めたのかを確認し、この時期は地租改正反対一揆がさかんになり、農民は一揆による「世なおし」をもとめ、自由民権運動に参加していないことに気づかせておく。
- 1880年に国会の開設が約束されると人々の運動は、政党の結成と秩父事件のような急進的な行動とに分化していったことを確認する。

第4時 憲法と議会

発問 二つの憲法を読み比べ、近代国家が形づくられる中で、どのような憲法が制定されたか考えてみよう。

五日市憲法 (一部要約)
 1880年から81年にかけて、各地の自由民権活動家たちによって憲法草案が提呈されています。なかでも植木枝盛の「日本国憲案」は有名ですが、五日市(東京都)でも、自由民権活動家たちによって「五日市憲法草案」全204条がつくられました。このうち36条は国民の権利についての規定で、人権を尊重する立場からつくられているのが特徴です。

大日本帝国憲法 (一部要約)
 第1条 大日本帝国は万世一系の天皇これを統治す。
 第28条 日本臣民は安寧秩序を妨げずおよび国民たる義務にそむかざる限りにおいて信教の自由を有す。
 第29条 日本臣民は法律の範囲内において言論・著作・出版・集会および結社の自由を有す。

帝国書院『中学生の歴史(最新版)』p.162

②の視点と③の視点をふまえ、さまざまな憲法

草案に盛り込まれた人々の願いとは異なった内容の憲法が公布されたことに気づかせる。

- 政府の憲法制定の準備から内閣制度・大日本帝国憲法・帝国議会・選挙制度を総合的にとらえ、ドイツ憲法をモデルとして、欽定憲法を制定し、議会の権限も制限されたものであったことを確認する。しかしながら、アジアではじめての立憲国家となった意味も大きいことをふまえ、明治維新を多面的にとらえる見方を示しておく。

第5時 北海道と沖縄

発問 北海道と南島地域の文化の流れを確かめ、これらの文化が明治維新の時期にどのようなようになったか調べてみよう。

	前200	紀元	200	400	600	800	1000	1200	1400	1600	1800
本州・九州・四国	縄文時代	弥生時代	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	徳川	江戸	
北海道	狩りと漁を中心とする時代						オホーツク 縄文時代 (→P.75)	アイヌ時代 (→P.116)			
南島地域	漁と畑作(あわなど)を中心とする時代						酋長・王の支配する 農耕の時代(→P.74)	琉球王国時代 (→P.74,114)			

▲④北海道・南島地域の歩み

帝国書院『中学生の歴史(最新版)』p.37

稲作が広がらなかった北海道と南島地域の文化が失われていくなかで近代的国民統合が行われたことに気づかせる。

- 北海道の開拓によってアイヌの伝統的な文化が急速に失われていったことを理解させる。
- 沖縄は本土よりおくれて改革が行われ、沖縄独自の文化が失われていったことを理解させる。

第6時 日本国民の誕生

発問 アイヌや沖縄の人々の立場に立って、明治維新とはどのようなものであったか考えてみよう。

琉球王国の存続を求めた人々	「日本人」と同じ権利を求めた人々	沖縄の「独自性」を訴えた人々
琉球王国の存続を願い、清に協力を求めた人々もいました。しかし、清が宮古・八重山諸島を清にゆずりわたすという日本の案に同意したため、かれらは強く抗議しました。	政府に対し、本土と同じ制度(税制・参政権など)を求める人や、その実現のために、ことばや生活面などをかえて「日本人」になる運動を進める人もいました。	沖縄文化を日本文化の一つとして尊重することを沖縄各地で訴えた人や、沖縄の方言を捨てることは独自の文化を捨てることだと批判した人もいました。

▲沖縄県設置から日露戦争までの沖縄の人々のさまざまな行動

帝国書院『中学生の歴史(最新版)』p.165

明治維新の変革は近代国家としての日本をつくりだすものであり、列島の多様な文化が失われる中で、日本国民の誕生をもってその変革が完了したことに気づかせる。

- 学制・教育勅語等の教育が重要な役割を果たし、国民的統合がすすめられたことを確認する。

4 まとめ

この単元のまとめとして、「明治維新」をどうとらえるかという課題がある。その際の考え方の例として、次のような点が考えられている。

まず、明治維新は近代化の成功例であるということである。従来は近代化に成功してもフランス革命やアメリカ独立革命の意義と比べれば小さなものと見られてきたが、第二次世界大戦後多くの国々が独立して40～50年たっても近代化に成功した国は少ない。近代世界の中では、日本の近代化は例外的な成功例だという見方がある。

しかし、その成功は主として経済的なものである。現代日本が目目されるのは、その経済的な成功に対してであって、日本の政治や文化に対してではないという問題がある。アジアで初めての立憲国家成立の意義とあわせて考えさせたい。

さらに、この明治維新の大きな特徴の一つとして、近代的国民統合に成功したことがあげられている。本単元の指導計画はこの近代的国民統合を帰結として展開を工夫してみたものである。このことについての問題点も現代からの視点で考えさせたい。

このほかにも、欧米追従とアジア蔑視の大きな問題がある。この問題については、第4節「アジアの日本から世界の日本へ」で取り扱われるべきであろう。

歴史の学び方の面での工夫としては、できるだけ資料から歴史的な事象を読み取ることを心がけた。本文の記述は資料の読み取りの結論であると考え、資料から考えることによって、本文の記述にたどり着くような展開を実践したいと思う。

なお、明治維新をとらえる①②③の視点で分類した年表を生徒が作成することも、単元全体を見わたし、時代の大きな流れを理解するうえで有効であることも付け加えておく。